

市民からいただいたご意見（原文）

No.	意見・質問
市民フォーラムの際にいただいたご意見	
1	<ul style="list-style-type: none"> ・聴集者の意見・集約したことを議論する時間をもっと取るべき。報告する時間の比率配分が多すぎる。 ・独自の自然の良さを強化・アピールし、外から人を集める活動を推進していきたい。 ・地産地消の強化、地元の農産物を守り、利用する関係を強化していきたい。 ・健康スポーツ施設、活動の強化。国際交流活動、地元国際学校の人々との交流
2	<p>・まちの将来像を「みんないきいき活力あふれる湧水のまち東久留米」としています。その説明の中でまちが潤い、活力あふれるまちとあるので、活力とは経済のことなのかと思います。湧水の保全と活力(地域経済の活性化)を両輪としていますが、この二つは衝突する面もあり、バランスを取るのが難しいと思いますが、どうやって実現していくのでしょうか？</p>
3	<p>10年先の構想はわかるが、今、現在の高齢者の為にもう少し見える、やさしい市政にしてもらいたい。</p> <p>例えば、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・路線バスが通らない地域をバスが通る様に・・・計画はある様ですが。 ・路線バスのノンステップ化 ・災害に強い街、水と緑を守る街がいつまでも続けられる様に願いたい
4	<p>都計の中で災害対策を挙げているが東久留市の震度階は回りの市町村に比して2～1低い。これは、地震計が地下1階に設置されていることが原因ではないかと思われる。このことで被災後の、都の支援体制が(震度階が回りの市町村より低い事で)少なくなったりする可能性があることを明らかに改善することが必要と考える。</p>
5	<ul style="list-style-type: none"> ・公園、運動場等のトイレを様式にしてほしい。 ・身障者や、高齢の方がとても不安でやりたい運動やゲーム等、心配だから・・・と参加してもらえない
6	<p>農地が宅地化される一方、人口減少により、空き家が増えることが懸念される。空き家が再成されない理由として、交通の利便性や数々の問題点が想像される。これらを解決していかないと、求める未来像とかけはなれたものになるのではないかと？</p>
7	<p>災害時の避難場所として商業施設からも協力を得て行かないといけないがその準備は進んでいるのでしょうか。</p> <p>また これからグローバル化が進んでいきます。オリンピックのホストタウンになる、クリスチャンアカデミーと更なる国際交流の場をもうけるなどの具体的な政策はありますか。</p>
8	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少化の流れに対して、宅地化による緑地の減少に歯止めをかける必要がある。 ・若者参加者が少ない→情報発信方法を多くする。(広く) ・地球温暖化でできること; 宅地に土を残す(コンクリートで固めない)→雨水ますだけでは足りない水を保全しなければならない条例を作る。緑を必ず植える
9	<p>基本答申の中に助け合い互助の項目がない。10年先を見れば地域の助け合いが必要</p>
10	<p>まちづくりの基本目標が「共に創るにぎわいあふれるまち」における基本的な施策に「地域経済の活性化」とありますが、その施策を推進していくに当たっては、もう一つの基本目標である「自然と共生する環境にやさしいまち」と調和を図りつつ、行なっていく必要があると思います。</p> <p>それを念頭に置いたうえで、東久留米市において地域経済を活性化していく具体的な施策は、どういったものが考えられるのでしょうか。</p>

11	<p>審議会委員の皆様、ご苦労さまでした。</p> <p>「まちの将来像」については、土地環境にあまりにもとらわれていた、まちの活性化について、まだ深く議論をしていない様です。</p> <p>「ひと」が中心となって、若い人たちに「レガシー」づくりに加わり、「レガシー」を共につくっていく意欲が欲しい。</p>
12	<p>①「みんなが主役」というのは、一番よくない。主役の顔がみえない。もっと世代をしぼったりすると東久留米として、「色がでる」と考える</p> <p>②長期計画を体系化することは大事。その体系化にあてはまらない、良いアイデアがでた場合、とり入れることはできますか？できない場合の理由が知りたい。</p> <p>③当然のような話で、すでにおもしろくない。もっともっと他市町村の良いとりくみややり方を吸収して欲しい。</p> <p>④私は東久留米が好きで引っ越してきました。もっともっと東久留米を大事にして、成長して欲しい。また東久留米を利用して私も成長したい。</p> <p>⑤世帯増⇨農地減という構図を理解しているのに、なぜ人口増を目指すのか？「税」や「公」にたよらない市民を育てるのはどうか？</p> <p>⑥全ては、主役の「事情」を取り払うことが大事だと感じた。</p> <p>⑦市民が前向きにやろうとしても、色々な事情で役所が受け入れない現実。</p>
13	<p>・安全・緑・自然との共存、美しい町として、最近、TVの番組でも取り上げられましたが、湧水点近くの弁天橋のあたりに、ポリ袋に入った生活ゴミなど捨てられているので、見回って欲しい。</p> <p>・外国人との文化交流など取り入れ、町の活性化や人口増加につなげられたらと思います。</p> <p>・本日のレジメになかった、パワーポイントの部分は、東久留米市のHPで見られますか？</p>
14	<p>①東久留米市の課題は何だと思えますか。</p> <p>②基本構想答申の内容の問題点は何だと思えますか。</p> <p>③これからを担う若者参加を望む。老人が多すぎる。対策を。</p>
15	<p>23 ページ 歳入、歳出プランを見ると、令和4年以降赤字計画になっているのは、歳入 up プランが不足しているのではないかな？</p> <p>企業誘致、ふるさと納税制度、高額所得者の誘致、歳出の見直し etc. 努力が足りないと思う</p> <p>「財政健全化委員会」で、様々検討されたプランが生かされていないのではないかな？ プライマリーバランス重視のプランは、崩れてしまっているのかな？ 27 ページの項目は単なるプランに過ぎない様に思う</p>
16	<p>基本構想実現のために</p> <p>① 協働(共創)を効果的に行う方策が、「情報発信、情報共有」としてまとめられているが、市民の参加、参画を実現する具体策を考えていますか。</p> <p>② 多文化共生とあるが、たとえば外国人児童を調査した上で、就学状況を把握し、日本語学習支援、就学支援などの施策を視野に入れてありますか。</p>
17	<p>○東久留米市の最大の地域資源・資産は湧水と清流、即ち水 この地域資源を大いに活かしたまちづくり、水～湧水・清流を活かしたまちづくりをお願いしたい。</p> <p>○市は、湧水・清流保全都市宣言を発し、環境基本計画や緑の基本計画でも多くの頁をこの関係に割いているが、まちづくりとしての具体の反映が必ずしも見えない。</p> <p>○湧水・清流の基は地下水でそれは雨水が浸透したもの。浸透を担保する農地の減少は2022年を待たずに激しく進捗。農地の保全も活かした街づくりが必要。</p> <p>○水を活かしたまちづくりを考えるにあたってのポイントは以下と考える。</p>

	<ul style="list-style-type: none"> ・単に守るとかではなく、攻めのスタンス、ブランドの構築とそれを活かした財政面での貢献 ・豊かな湧水と清流を守るためには、地下水を供給してもらっている近隣後背地との連携
18	基本構想を実現するため、他市に先駆けた新しい条例づくりに取り組んでいただきたい。 たとえば「市民参加のまちづくり条例」「障害者が生き生き暮らせるまちづくり条例」
19	高齢化の進展・少子化の推進について、10年後へのトレンドの認識の共有化が行政・市民ともに求められていると思われる。 この点に関して、特に対策についてどのような事項が考えられているか？
20	<p>①市民構成として、仕事を辞した60代、所得減少によりペイドワークを求める子育て女性が増える。この方々が市内で働けるコミュニティビジネスに力を入れてほしい。そのためのつながりづくり、起業支援、空き施設のオフィス化とその援助が必要と考えており、構想、計画に盛りこみ、実効ある動きを市につくっていただきたい。</p> <p>②まちづくりに参加したい市民の場として様々な場はある。市内では各課がそれぞれフェスタと称す実行委方式のイベントをやっているが、担い手不足、関連団体の支援不足、参加者の伸び悩みなど課題は多い。こうしたフェスタのあり方については市側でも十分に検討し、「何をめざして、どういう成果を得たいか」についてこの担い手らとよく協働し「やることが目的化」しないよう、こうした計画実現の重要な場として力を入れてもらいたい(市民との協働についての見直し)「共に」の現実はお寒い</p> <p>③都市農業振興といいながら予算が少なすぎるし、農業者側に寄っている。市民理解を進めるためにも、ピーアールと地元消費を進めるサポートをお願いしたい。都市農地の位置づけが変わるなかで、市民 市民団体の参入に踏みこむべき。</p>
21	科学・技術の発展に関して、まだ議論が消化されていないようだ。 都市計画の意識に集中してきたきらいがある。 福祉・教育につながる基本計画もふくまれるよう望みたい。
22	時間がない中、参加したが、現状と課題がだらだら続き、本体の内容を聞く時間がなくなった。 国や都の現状をていねいに説明する必要はなく15分以内で終わらせる中身だった。残念に思う。
23	本日のフォーラム大変有意義に聞かせて頂きました。 答申された課題は、未来志向として若年層、中学生位からが良いと思います。 成人式の中でも。
24	農業の見直し。
25	東久留米市の基本構想の中に道路整備とありますが、道路が壊れて老人が歩くと危ない道があるので早く整備をお願いしたいと思います。(前沢 5-6-32 近辺) さらに東京23区内の公園には必ずトイレがあります。東久留米市にはほとんどありません。この立ち遅れの差を早く埋める必要があると思います。 また、あまり活性化に重点を置くと今問題の環境汚染及び地球温暖化の促進につながるのリスクを見据えた取組がこれからの社会づくりに必要かと思います。

26

4 ページの「基本目標:安心して快適にすごせるまち」〈基本的な施策〉の○安全・安心な地域づくりについて

近年、大規模な地震が続き、今年も台風等による風水害も、大変な被害をもたらしました。更に直近の話題として、今月、NHK が放送した「体感首都圏直下型地震ウィーク」のドラマ「パラレル東京」では、国の被害想定に加え、最新研究による想定も加えたことから、これまで考えられてきたよりも、更なる深刻な被害が想定されていました。

答申の中では、「防災・防犯対策の充実」や「交通安全の推進」、「消費者相談」が、同一レベルで記載されていますが、防犯・交通安全対策は警察、消費者相談は市役所の極一部である消費者センターが主に担うことであり、防災対策とは、一線を画すと思います。

特に、防災は多くの人命にかかわる内容であり、東久留米市は防災には比較的強い地域ではありますが、市として、もう少し力を入れる姿勢を見せるべきかと思います。

私が具体的に心配していることは、①平日の昼間に地震が起こった場合、働き手の多くが地域に居なくなる事。お年寄りと子供達を、僅かな働き手が支えなければならなくなる事です。もう一つは、②避難所の整備が大丈夫かということです。台風 19 号では下町の多くの避難所に、想定の数倍、3 倍の一時避難者が集まり、パニックの一手手前だったそうです。避難所の整備や運営に、更に力を入れるべきかと思います。

多くの人命にかかわる防災対策について、是非、もう少し踏み込んだ姿勢を見ていただければと思います。

27

1. 将来像、基本理念～基本目標全般について

(1) 中間答申の基本的な受け取り

小生の中間答申の基本理解は以下です。将来像と基本理念の部分です。(下図参照)

・基本的なまちの「姿」については「将来像」、その基本的な「達成方法」については「基本理念」として表現されている。

・「姿」については、人々が躍る「舞台」と、そこで踊る人々の「在り様」が示されている。すなわち、「舞台」は「湧水のまち」、「在り様」は「みんないきいき活力あふれる」である。



これらについて特に異存は有りません。

舞台については、本当は「湧水・清流のまち」でしょうが、長すぎるのでしょう。

また、在り様に関しては、一般に安全・安心、利便・快適や活力が挙げられるのでしょうから、それらを纏めて「いきいき」としたのはいい表現と考えます。(重ねて「活力」が有るのも良いのでしょう。)

(2) 問題は基本目標の方に

① 現在の 5 つの基本目標のうち、2～5 は全て「姿」に関するものである一方、1 は「姿」と「達成方法」

の両方が含まれています。

この混在は相当に上手くなく、別建てとすべきと考えます。

② 姿が先か、達成方法が先か？一般には姿を先に示し、達成方法は後に持ってくる方法がとられることが多いようですが、今回は達成方法を先に提示すべきと考えます。

「みんなが主役」というのは時代状況も含めて、極めて重要なフレーズと考えます。単独で一番最初に持ってくるべきものと考えます。例えば(本当に例えばですが)以下のような提示でしょうか。

「みんなで共に創るまちづくり」

当市では旧く平成 19 年に「協働の指針」が策定され、平成 29 年に改定されました。市民レベルもそうですが、市職員においても、その精神・マインドが十分に共有されているとはいいいがたい状況かと考えます。

同指針では「協働によるまちづくり」とされています。その協働の定義が「市民活動団体等と行政の間の協働」とされていることも含めて、市民を主役としている今回のコンセプトから大きく遅れているのかもしれませんが、今回、折角、「主役」とするので、冒頭にこのコンセプトが提示されるのが妥当と考えます。このような提示は相当のインパクトをもって市民に受け取られるのではないのでしょうか？

今回ランクアップした感のある「生涯学習」の項目は、達成方法の有力なツールとしても位置づけされると考えます。あるいは基本目標の文言の中に「共に学び」が入るのかもしれませんが。

③ 以下、1 の半分と 2～5 に記されている「姿」について記述します。

先の分類で考えれば、1 の半分と 2～4 は人々の「在り様」で、5 が「舞台」に関することです。この提示の仕方について色々な考えがあるかと思いますが、小生は「湧水のまち」という「舞台」を先に提示するのが良いと考えます。

舞台が無いと人々は踊れないではないか、という理屈は兎も角、先のアド街ツク天国・東久留米編で示されるまでも無く、湧水・清流は市の最大の地域資源と考えます。この湧水・清流という地域資源をおおいに有効に活かしたまちづくりが最初に出てきていいのではないのでしょうか？単に環境の保全・回復&創造という環境面のみを言うのではなく、それを活かした、財政面での改善を含めた、まちの活力の増大につなげていく考えは極めて大切なものと考えます。

現状で南沢湧水群も含めて全般に、国分寺崖線沿いの湧水の名所(お鷹の道・真姿の池など)に比しブランド力は低い状況ですが、そのブランド強化も含めて多彩な施策の展開があってしかるべきで、その背景としての重みのある提示が重要と考えます。

数年に一度「瀬切れ」を生じてしまう(国分寺崖線からの湧水を基とする)野川に較べて、我が落合・黒目の両川は全くそのようなことは生じていないのです。

④ 次に人々の「在り様」関係について。

こちらはその並べ方は様々な考えがあるかと思いますが、高齢者や障害者が強調され過ぎているように感じます。「高齢者・障害者を含む全ての人々」というような表現にならないでしょうか？施策として不足しているのは高齢者・障害者ということかもしれませんが。

イニシエの「新しい公共」という言葉は政策テーゼとしては力を失っていますが、その中で言われた「全ての人に『居場所と出番』を」という概念は「今でも」というより、「今だからこそ」更に重要なものと考えます。この文言が何処かに記載されることを期待します。

一方、こどもに関する別項目建ては賛成です。ただ、子育てのため暮らしの面での基盤づくりは兎も角、具体の施策の中身として終局的に「学校」に着目するのは如何かと考えます。学校を含む地域社会が子

供を包摂して育てていくまち・社会を目指すべきではないでしょうか？

2. 舞台としての「湧水のまち」、基本目標5に関連して

市民の皆さんが恩恵を受けているのは湧水そのものもありますが、より多くは清流の方かと考えます。清流は平常時の流量が前提です。平常時の流量は地下水の河川への湧出に依存しています。東久留米市域～黒目川流域で雨水が地下にしみ込む量だけでは、今の河川流量を全く確保できないことが、小生が参加しています「東久留米の水循環を勉強する会」の勉強成果として判明しました。

川に湧出している地下水の相当部分を後背地からの供給に依存しているのです。その量は明確には把握できていませんが、市域～流域でしみ込む量の数倍の量の地下水を後背地から供給される必要があるのです。

市単独でも、その地下浸透量の確保に頑張らねばなりません、小平市や東村山市など、後背の武蔵野台地に降る雨が地下に浸透してもらう必要があるのです。

このようなことから、長く将来にわたって「湧水のまち」を標榜するためには、市単独の努力だけでは全く無理で、後背地である近隣市の協力が必須です。その意味から、「近隣市との連携・協働」ということを基本構想に盛り込むことが必要です。

他市に協力を求めるためには、自身としてのしかるべき努力も必要ですが、一方、他市に協力を求めるに当たっての見返りなど、スキームの構築も必要です。ただ、これは当面「今後の課題」としなければならぬでしょう。

なお、上記の勉強会の知見については、勉強会の成果を纏めた報告書「東久留米・黒目川流域の水の今とこれから」に記載しており、この報告書は市の関係部署に進呈しています。都市建設部管理課、同下水道担当、環境安全部環境政策課および産業政策課(農政係)の4部署です。必要に応じて「第3章 黒目川流域の水収支」を参照していただければ幸いです。

先の台風を経験して・・・

東久留米市に転入して43年、地球温暖化でこの40年間で台風の質が大きく変化しました。転入当時は“古代人が住み着いた下里地域”は自然災害(地震、風雨災害)に安全と安心していましたがこの数年の東久留米で体験した台風は(数字では掌握していないが)明らかに風力、雨量ともに1ランク上のレベルを感じるようになりました。更に関東他県の災害をTVで観るにつけ、台風が近づくと恐怖さえ感じるものがあつた。幸いにも私の近隣では近年の道路整備で水による被害はほとんど無くなりましたが、(一部、下里地域では冠水被害があつた)

(一方、)風害は白山公園内の樹木や、街路樹に倒壊がありました。

*)40年以前の道路開通に伴う街路樹の老朽化はほぼ限界にきています。

28 幸いにも人身事故に至ってはいないが古い街路樹や市立の公園内樹木の総点検が必要です。

近年の異常気象は私たちの想像をはるかに超える気象災害をもたらすでしょう。したがって、近い将来、(比較的、災害とは無縁であつた東久留米にあつても)経験値をはるかに超える災害に見舞われても不思議ではありません。

*)予想を超える災害の可能性を・・・東久留米市は独自の気象予報の専門家による将来予測により危機管理の意識向上が必要です。

平行して

*)COP25で地球規模で真剣に協議されているが地球温暖化の歯止めのための意識向上が重要だと思えます。(全くCO2削減には程遠いと思える)市民レベルでの意識向上が急務です。

	<p>環境少女グレタ・トゥンベリさんの活動は(平和国家日本の中の小さな東久留米市の)小中学生への啓発の必要性を感じます。現在、大きな自治体や大企業だけにとどまっている「温暖化抑止意識」を「小都市東久留米市」でも「核廃絶宣言と同様の“宣言”」・・・「ストップ・ザ・地球温暖化宣言」を試みたらどうでしょうか？</p> <p>「2050年までにCO2 80%削減、今世紀末には実質CO2ゼロを達成する」ための努力をすることは直近のインスタントな防災には直結しないが未来を担う青少年の意識向上が世界を変える力となり得ます。この運動を小都市、東久留米市からスタートしてください。10年前の平成21年3月の東久留米市【第四次長期総合計画 基礎調査報告書】を拝見して『「金はなくても、水と緑の住みやすい街」を目指して環境を大切に行政のサービスは我慢するのか?』が東久留米の行政の長年の課題であった歴代の市長の口癖は「財政が弱い」。「法人税収入は都下で(下から数えた方が早い)22位?」「法人の事業所も他市に比べて小規模である東久留米市は長年、“タバコ税”に依存するという不健康な街です。しかし、「最近の「上の原地域の、活性化事業」の成功」は“行政が可能な限りの知恵を出せば「市民にも喜ばれ」「財政も潤う」。東久留米市の歴史上一番の成果ではないかと思えます。市内にはURの滝山団地等、上の原と同様の地域もあるので引き続き検討して頂きたい。法人税の増収は企業の誘致が重要であることは誰も否定はできない東久留米市は土地の「用途変更」には消極的に思える。しかし、土地の「用途の変更」を“丁寧”に進め「病院、介護施設」の誘致を促進して頂きたい。</p> <p>*)以上でレポートを終えますがこのレポート作成には年末の多忙な時期と重なり、1-2日間での作成となった、あまりにも短時間の検討作成で“安直のそしり”を受ける内容となりました。時間が許せば、せめて1年ほどの時間を頂戴して“第四次長期総合計画”に関わる幅広い資料(せめて総合計画によって市政がどう?進んだのか?)等を基礎に様々レポートしたいと願うものです。</p>
29	<p>わがまちでは湧水・清流は一体のものとして従来から様々な活動で標記してきました。特に、平成23年6月には全国初の「湧水・清流保全宣言都市」をし、市民・事業者・行政が力を合わせて湧水と清流の保全に取り組んでいくことを宣言しています。</p> <p>また平成29年度からは、落合川は東京都から水質面で最高ランクの“AA”をいただいています。このため、わがまちにとっては湧水と清流は切っても切り離すことは出来ません。</p> <p>具体的には下記のように表現の修正して戴ければと思います。</p> <p>1. まちの将来像の中の、「みんないきいき 活力あふれる 湧水のまち 東久留米」⇒ 「みんないきいき 活力あふれる 湧水・清流のまち 東久留米」</p> <p>よろしくお願い致します</p>
30	<p>第5次長期基本計画の基本構想中間答申について、意見を申し述べます。</p> <p>「3.まちづくりの基本目標」の中の「安心して快適にすごせるまち」基本施策の安全・安心な地域づくりについて、防災・防犯対策の防災については、これから十分に議論していただきたいと思えます。</p> <p>ご承知のように本年の台風による豪雨災害は、いまだかつてないほどの悲惨な状況でした。地球温暖化による気候の変動という事になりますと、また来年も同じようなことが起こるのではないかと心配をいたします。</p> <p>政府も防災・減災に相当の力を入れて動き出すと思えますが、東久留米市においても、防災の議論を具体的に進め、今まで以上に万全の体制を整えていただきたいと思えます。そのための長期総合計画であっていただきたい。</p>

いわゆる地方創生が一段落し、東京オリンピック開催に向けてあわただしい中、また、地球環境、人口動態、経済状況などご起動の下、答申をまとめられましたことに感謝申し上げます。まちづくり関係者として、次のとおり感想を述べさせていただきます。

1. これからの本市の盛衰は、次世代がいかにかに健やかに成長し、次の地域そして国を担うかに関わっていると思われませんが、マスコミ等で喧伝されているように今の子供の育成環境はじめ、虐待等トラブル多く、安心できる状況ではないようです。

地域社会から生氣ある市民の生活・活動が失われては、持続しても有意義とは言えないのではないのでしょうか？

今こそ、市役所も市民も皆が真剣に少子化社会の問題を考える時では思います。

資料1(現状と課題)は不十分と思います。

(1)「本市の人口推移(年齢区分)(推計)」(p20-21)については、出生率、家庭生活の安定等に重要な関わりある男女別内訳が必要と思います。諸議論の契機とすべきと思います。

31 (2)「財政構造の変化」(p10-)及び本市の歳入及び歳出の推移(推計)については、国及び本市の借入金の推移及び今後の推計が不可欠と思います。財政論議には必須と思われれます。

(3)社会保障給付費の推移(国全体)(p12)については、保育関連等少子化対策費は「福祉その他」から区分して整理していただければと思います。

2. 中間答申について

<共に創るにぎわいあふれるまち>

(1)商工業・農業等事業の継承・発展について対策が必要では？

(2)IoT化・ロボット化等今後急速に進展する産業のイノベーションへの対応策が必要では？

<子供が豊かに成長できるまち>

(1)学校教育にはプログラミング教育、PC化の大波、一方では虐待。いじめ等の問題があり、これら問題への対応は重大。具体策のご検討を。

(2)社会激変の前に、出生から成人までのプロセスが不透明化しているのでは。こども、保護者、教職員の関係は従来のままでは行き詰まりでは。徹底的な教育界の見直し、再構築ができないと、これから進む教育改革の下、本市は衰退の道にと思われる。

改革の時は今では。

基本構想の中間答申について現在のまちづくりの基本に防災を何よりも必要と強く感じます。

首都直下地震、南海トラフ地震等大規模広域災害の発生が30年以内に70%といわれる中でソフト面とハード面の対策を組み合わせた防災・減災を共に住民自身による自助、地域コミュニティにおける共助が公助の限界を知った現在災害対策に重要な役割を果たすようになっていきます。

避難所訓練を今までやってきましたが、避難所も限界、在宅避難重複となりました。日本は災害列島であり、火山大国であり、かつ原発大国です。

32 自分たちが生存している間は災害はこないと危険が迫っていても大丈夫と思っている人が何と多いか。ハザードマップを見ても重要性を認識してません。災害の発生の可能性の認識不足です。無駄でも空振りでも良いのです。地域の危険性を知り、学ぶ事により、平常時に地域における防災学習や訓練に参加して災害時に備える事が重要です。防災とは自分と自分の大切な人を守ることであると答えた人がいた。自分だけではなく「自分と」というのが大事な自助の精神です。

大震災の教訓・経験を風化させることなく犠牲者ゼロを目標に災害対策は環境対策などとともに市民の生存権を保障すべく安心な生活確保の上で欠かせない制度政策であると位置づける事でもあり地域防災計画の推進につとめてほしい。